

博物館だより

2012年 秋号

| 葛飾区郷土と天文の博物館 | Katsushika City Museum

No.

1 0 5

ふか郷 かるた 原画展

平成24年

会期 12月15日(土)

会場 葛飾区郷土と天文

平成25年

>> 2月3日(日)

の博物館 特別企画展示室



ふ

故郷と
宇宙をつなぐ
博物館

葛飾区郷土と天文の博物館は、葛飾の歴史をたどる郷土博物館と、星の世界をさぐる天文博物館が1つになった博物館。宇宙の彼方まで自由に旅することが出来る機能「デジタルユニバース」を搭載している。

金町・柴又間を人が押して走っていた。京成電車が走ることになり廃止された。現在の金町・柴又間の線路が直線なのは、人車鉄道のなごりである。

け

懸命に
車夫がおつす
人車鉄道

1899(明治32)年〜1913(大正2)年まで、帝釈天にお参りする人を運ぶために、



世界的な切り絵画家の辰己雅章氏による
かるたの原画のほか、作品の展示を行います。

「かつしか郷土かるた」は、「葛飾に住む誰もが、いつまでもふるさとに誇りを持ち、愛し続けて欲しい」との願いから生れました。
かるたに取り上げた44の題材は、小・中学生から寄せられたら、379句の読み札の「ことば」をもとに、自然、産業、文化・歴史、人物などを選定し地域性も考慮して作成しました。



さ

参道の
にぎわい
帝釈天

1629(寛永6)年創建の寺。境内の「御神水」と建物の彫刻が有名。川魚料理、草団子、せんべいなどの店が軒を連ねる参道は、特に縁日「庚申の日」には参詣者・観光客で賑わい、外国人も多い。映画「男はつらいよ」の舞台としても有名である。



る

累代の
技術が染める
江戸小紋

細かい着物の模様である小紋を、小宮康助(人間国宝)が近代に伝え普及させた。3代にわたって伝統技術を継承している。

その他にも区内には沢山の伝統工芸品があり、染色工業も代表的な産業であった。

関連イベント

辰己雅章の切り絵教室

切り絵の体験ができます。

日時 平成24年12月22日(土)と
平成25年1月下旬の2日間

場所 葛飾区郷土と天文の博物館 体験学習室ほか

かるた大会

小・中学生を対象にした、かるた大会を開催します。

日時 平成25年1月5日(土)

場所 葛飾区郷土と天文の博物館 講堂

※詳細につきましては、「広報かつしか」や葛飾区ホームページをご覧ください。

販売場所

郷土と天文の博物館
区役所の区政情報コーナー(庁舎3階)

中央図書館

シア活動支援センター

伝統産業館

寅さん記念館 ミュージアムショップ「柴又下町や」

柴又観光案内所「かつまるショップ」

「かつしか郷土かるた」は、学校の郷土学習で活用するとともに、一般の方に販売しています。ご家族や地域の皆様でご利用ください。



東京低地災害史

地震、雷、火事？：教訓！

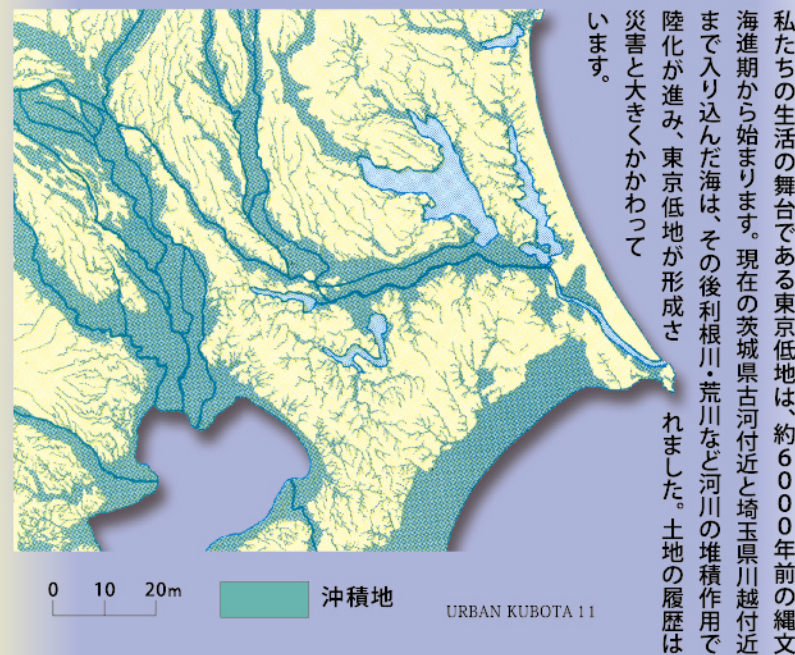
2011年3月11日に発生した東日本大震災は、自然と人間の関わり方を根底からくつがえす出来事でした。1年半余を経過した今も、被災地の復興は進まず、多くの方々が自宅に帰れない、以前の仕事に就くことができない等、苦しい状態が続いています。

特に、福島第一原発は、廃炉まで何十年もの時間が必要とされ、周辺の帰宅困難及び居住制限区域の方々が、以前の生活を取り戻すには、多くの困難が予想されます。

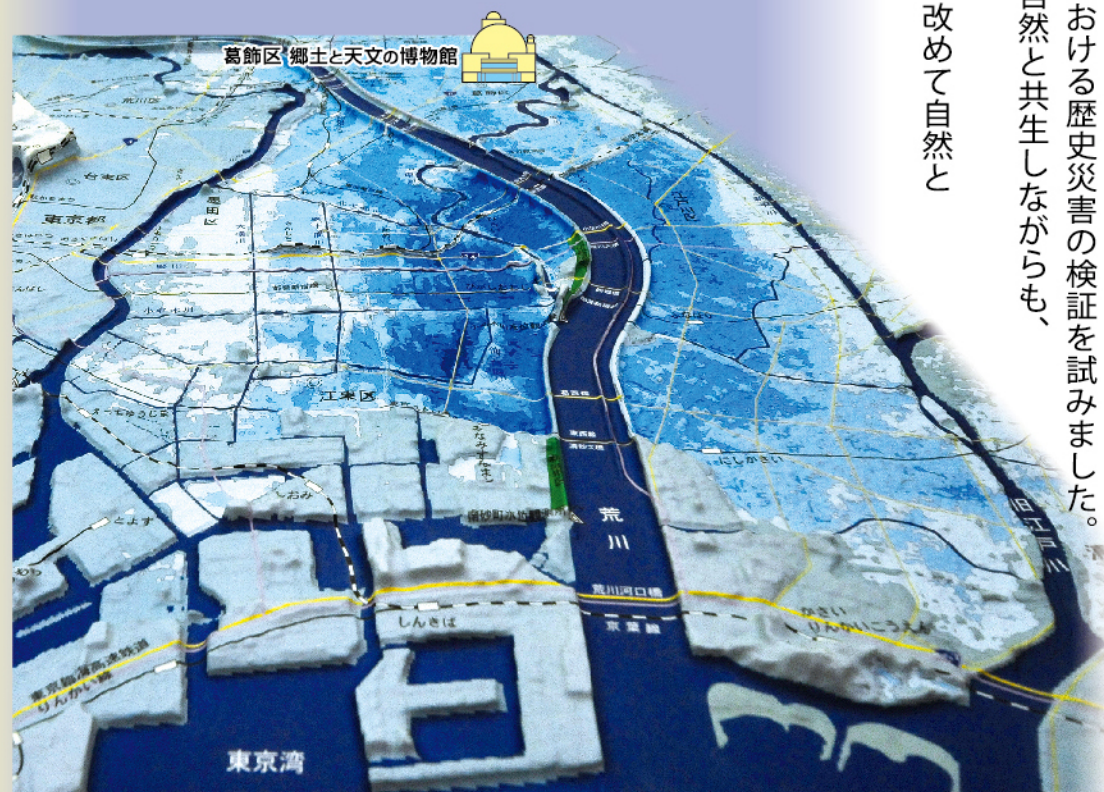
この展示では17世紀以降、東京低地が立地する関東平野における歴史災害の検証を試みました。多くの災害は避けては通れないものですが、先人は、自然と共生しながらも、発生した諸災害と立ち向かい、復興をとげてきました。

残された史料から、災害の教訓を少しでも未来に継承し、改めて自然と向かい合う契機になれば幸いです。

東京低地の自然環境



私たちの生活の舞台である東京低地は、約6000年前の縄文海進期から始まります。現在の茨城県古河付近と埼玉県越付近まで入り込んだ海は、その後利根川・荒川など河川の堆積作用で陸化が進み、東京低地が形成されました。土地の履歴は災害と大きくかわっています。



荒川下流立体地図(荒川下流河川事務所)

関東平野災害史

地震・津波

東京低地では、プレート境界型地震として、1703(元禄16)年の地震、1923(大正12)年の関東大震災があり、広範な津波被害が発生しました。現在懸念されている直下型地震には、1855(安政2)年の江戸地震、1894(明治27)年の東京地震があります。



写真提供 光と風キャンペーン実行委員会 千葉県旭市飯岡 2011(平成23)年3月11日 5時19分50秒

水害と高潮

利根川・荒川の影響を受けた東京低地では、江戸時代以降も幾多の水害に見舞われています。



GHQ東京撮影 葛飾区堀切 1947(昭和22)年9月21日

1910(明治43)年の水害は首都東京に大きな被害をもたらし、荒川放水路が建設されました。1947(昭和22)年9月のカスリーン台風は、葛飾区全域が水没する大水害でした。東京湾沿岸では、台風時の高潮被害も多く記録されています。

火山

関東平野を取り巻く富士山や浅間山など多くの火山群の噴火活動は、東京低地に影響を及ぼしました。1707(宝永4)年の富士山噴火では、広範な火山灰が降り、宝永火口が形成されました。1783(天明3)年の浅間山噴火では、天明泥流によって吾妻川から利根川、さらに江戸川を通して流された人馬を、柴又村の人々が帝釈天の墓地に葬り、供養碑を建てています。



東北大学附属図書館

東日本大震災の教訓



福島県いわき市広野町 福島県双葉郡楢葉町「ヴィレッジ

自然に 想定外は ありません



福島県いわき市久之浜



併催企画

記念講演会

「東日本大震災の津波の教訓と 安政江戸地震による詳細震度分布」

出演 都司嘉宣氏 (元東京大学地震研究所准教授)

歴史教養講座

「関東山地での大規模土砂災害と下町東京」

出演 井上公夫氏 (一般財団法人砂防フロンティア 整備推進機構技師長)

津波被害を語る会

日時 11月24日(土) 午前の部 11時～11時50分 午後の部 15時～15時50分
出演 いいおか津波語りつぐ会

平成24年
会期 10月7日(日) >> 11月25日(日)
会場 葛飾区郷土と天文の博物館
特別企画展示室ほか



葛飾区郷土と天文の博物館ご利用案内

開館時間	午前9時～午後5時 (金・土曜日は午後9時まで開館。ただし金・土曜日が祝日の場合、午後5時に閉館。入館は閉館の30分前まで)
休館日	月曜日、第2・4火曜日 (月曜祝日は開館。火曜祝日は開館し翌日休館)
入館料	大人 100円 小・中学生 50円 小学生未満無料 (毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引)
プラネタリウム観覧料	大人 350円 小・中学生 100円 小学生未満 50円 (毎週土曜日は中学生以下無料。20人以上の団体は2割引)
年間パスポート	大人 2000円 中学生以下 700円 購入から1年間、入館とプラネタリウムが見放題になる大変お得なパスポートです。購入時にご希望があれば、当館からのおたよりを1年間お送りします。

博物館だより

発行	葛飾区郷土と天文の博物館 〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1 電話：03-3838-1101 FAX：03-5680-0849 Web：http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/
----	--